

国語科の0次におけるNIE ～学びへの構えをつくる～

東京学芸大学附属小金井小学校 教諭 橋浦龍彦

自己紹介

関心事：国語科・書くことの授業づくり 共感性 「共有」の授業 NIE

2015年 北区立滝野川小学校

2016年～ 北区立豊川小学校

校内研究主任：国語、生活・総合 東京教師道場（国語）修了

北区小研国語部授業者・研究委員 都小国研書くこと部大会授業者 他

2022年～ 東京学芸大学附属小金井小学校

講師：総合初等教育研究所 教育セミナー

書籍・原稿：「板書で見る授業」シリーズ（東洋館）

「みんなの教育技術」国語（小学館） 他

論文：言葉と体験を交流して多面的に読む説明的文章の学習
— 小学2年生『おにごっこ』の実践 —

https://www.jstage.jst.go.jp/article/gakugeikokugokyouiku/18/0/18_50/_article/-char/ja/

所属学会・研究会 日本国語教育学会 全国大学国語教育学会 東京学芸大学国語教育学会
近代化・授業創造の会 東京都小学校国語教育研究会書くこと部 など

発表概要

- 1 国語科における「0次」とは
- 2 令和6年度NIE研究報告書より
- 3 今年度の実践より
- 4 児童の姿と今後の課題

Ⅰ 国語科における「0次」とは

「導入の前に、子どもたちに課題意識や興味・関心を十分に醸成する時間」をとりたい。さらに言えば、子どもの捉えた課題意識なり興味・関心なりが抽象的なものではなく、子どもを取り巻く現実生活の中からのものであることが望ましい」単元前に「子どもの興味・関心や課題意識を醸成する『0次』段階」を設定することで、児童がより主体的に学ぶようになる。短期の0次と、長期の0次がある。

I 国語科における「0次」とは

例：「ごんぎつね」を読む前に、児童や教師が

- ・新見南吉記念館を紹介する、実際の写真を見せ、掲示する。
 - ・学級文庫に、新見南吉作品を設置する。
 - ・新見南吉作品の読み聞かせや読書をする。
 - ・新見南吉に関する新聞記事を紹介、掲示する。
- スクラップをする。等

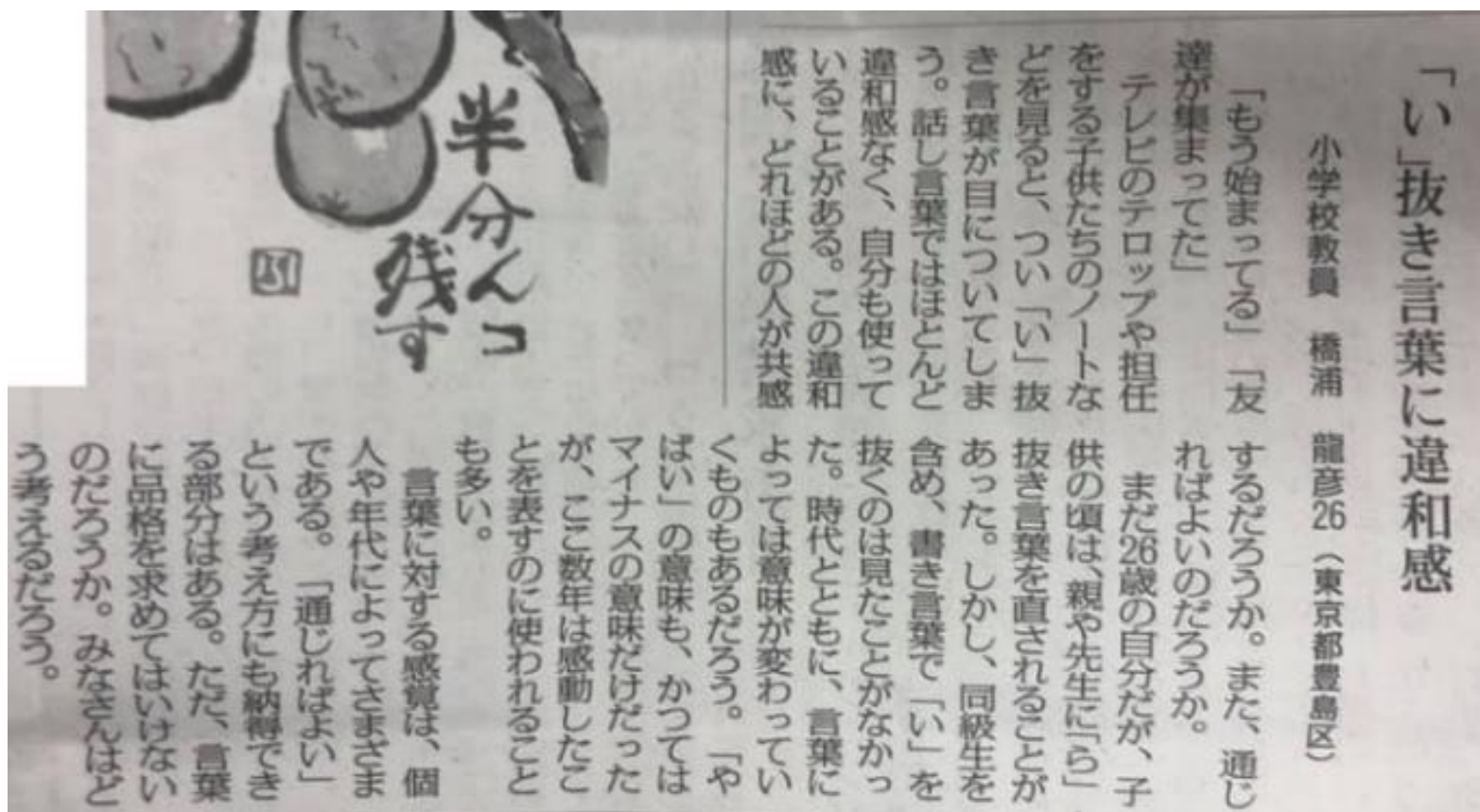
→児童から、「『ごんぎつね』を読みたい」
「新見南吉作品を読みたい」という声が広がっていく。

2 令和6年度NIE研究報告書より

(1)「新聞の投書を読み比べよう」(6年・書くこと)

導入前に、
教師が投書。
毎日新聞に掲載。
児童に紹介、
教室に掲示(0次)

→児童の「書いてみたい」
から単元が始まる



2 令和6年度NIE研究報告書より

(1) 「新聞の投書を読み比べよう」 (6年・書くこと)

意見文を書く単位。
相手意識は校長、
区長、世間 (投書)
から選択。

←掲載された児童の投書

次世代への考え変えた言葉

小学生

12 (東京都北区)

12歳の私は、これまで子孫のことなど考えたことはなかった。自分たちが生きている時代が平和であれば良いと思っていた。

しかし、次の2人の言葉や文章にはっとさせられ、そのような考えを変えるきっかけになった。

1人は天皇陛下だ。今年6月に愛知県で開かれた全国植樹祭の式典で「健全な森を次世代のためにつくっていくことは、私たちに課せられた大切な使命であると考えます」とおっしゃった。

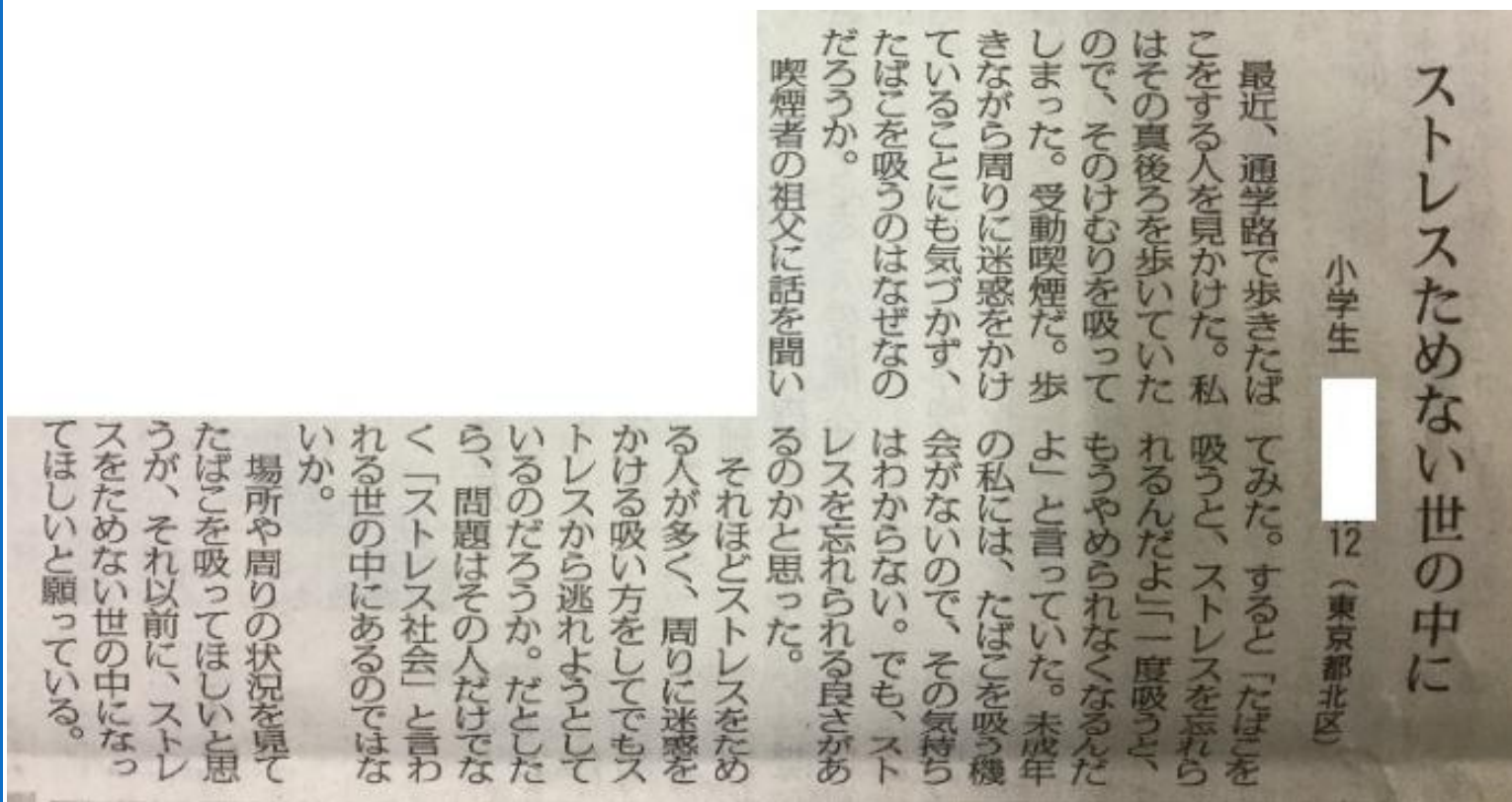
もう1人は鷲谷いづみさんだ。国語の授業で「イースター島にはなぜ森林がないのか」という説明文を読んだが、最後に「今後の人類の存続は、むしろ、子孫に深く思いをめぐらす文化を早急に築けるかどうかにかかっているのではないだろうか」と書かれてあった。私は、この言葉や文章を聞いて「まだ子供だけど、私たちが次の世代に今ある自然や文化、平和を残し、伝え、守っていかないといけないのだ」という思いを強く持った。

2 令和6年度NIE研究報告書より

(1) 「新聞の投書を読み比べよう」 (6年・書くこと)

意見文を書く単位。
相手意識は校長、
区長、世間 (投書)
から選択。

←掲載された児童の投書



(2) 「くじらぐも」 (1年・読むこと)

「中川さんはまだ私達に伝えたかったことがあるはず」
という児童の言葉から、単元が始まる。



3 今年度の実践

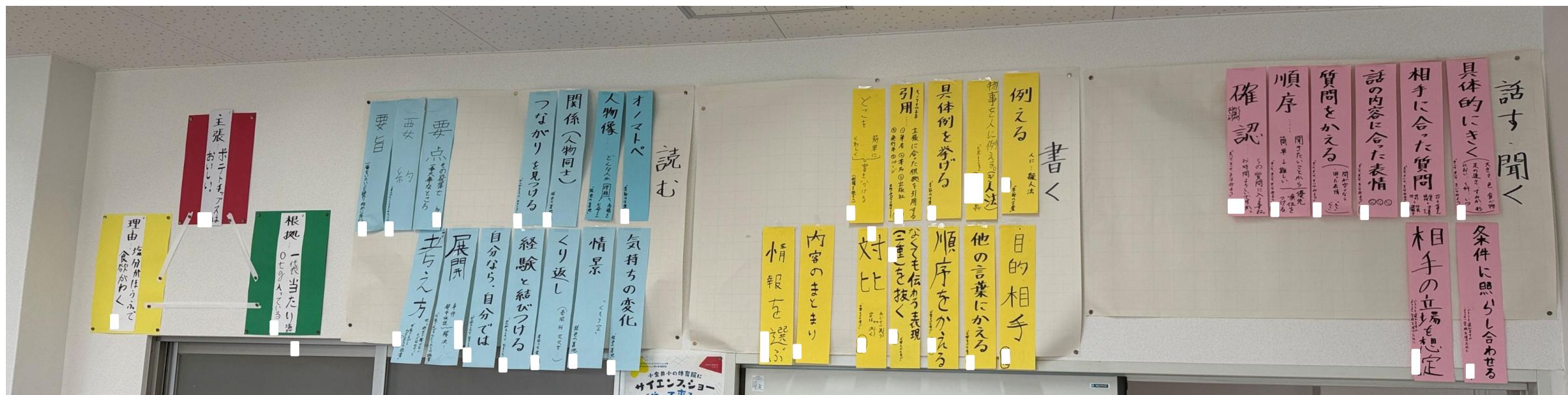
- (1) 環境づくり 獲得した視点の可視化 ライティングワークショップ
- (2) 毎日届く新聞と、朝日小学生新聞デジタル
- (3) 日常的なスクラップ、新聞コーナー、はがき新聞
- (4) 0次として

3 今年度の実践

(1) 環境づくり 獲得した視点の可視化

ライティングワークショップ (詳細略)

(目的・相手・文種を見童自ら設定、計画。2, 3年時に次ぐ三度目の担任。)



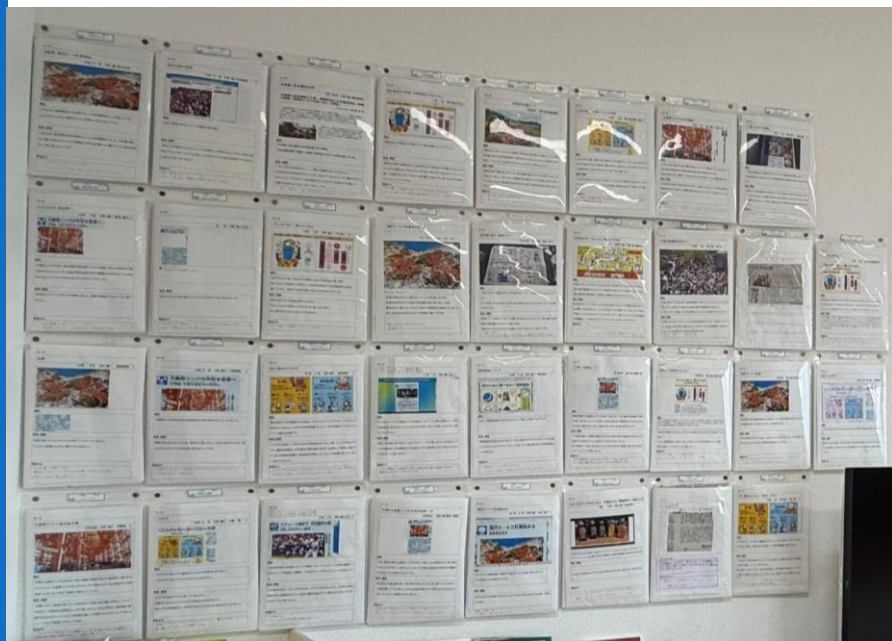
3 今年度の実践

(2) 毎日届く新聞と、朝日小学生新聞デジタル



3 今年度の実践

(3) 日常的なスクラップ、新聞コーナー、はがき新聞 担任、児童同士、教育実習生も作成・コメント



新時代！

6月 27日 5年1組 ()



要約

ローソンと大手通信会社の KDDI は23日未来コンビニ「Real×Tech LAWSON」の一号店を開いた。前とは違い、商品を進める「AI サイネージ」がある。お菓子の飲み方については、リモートで接客をしている。しかも「からあげくん」を自動で調理するロボットがある

意見・感想

私は、よくスイーツやお菓子などを買いにローソンによくいきます。前までは人がからあげクンを揚げていたけれど今はロボットが、自動で調理をしているそうです。今のロボットは調理が出来るなんてまさに新時代。コンビニの人手不足も助けてくれるので私はとてもいいと思います。もしも未来コンビニが増えて行く時があったら、ロボットが作ったからあげクンを味わいながら食べたいです。

デフリンピック

10月 18日 5年1組 ()



要約

2025 年デフリンピックの開幕まで残り1 か月となった 10 月 15 日、東京都墨田区で選手と小学生による交流イベントが開催された。墨田区内の小学校からは、4 年生約 140 人が参加。手話体験やチアリーダーのパフォーマンスを通じて、楽しく学びながら交流を深めた。イベントには、陸上競技の選手・黒田睦月さんも登場し、子どもたちに大会への意気込みを語るとともに、応援のメッセージを送った。

意見・感想

聞こえにくい、聞こえなくても本気で障害のない人と同じくらいスポーツをできていることがすごいと思いました。交流イベントは、デフリンピックについて、聞こえにくい、聞こえない人の大変さがよく理解できそう。デフリンピックを見たいです。

3 今年度の実践

(4) 0次として

「みんなが使いやすいデザイン」 (5年・書くこと)

- ・身の回りのUDに関する記事収集、掲示、スクラップ

→児童がUDに興味をもち、単元を立ち上げる。
市営バス、駅、商業施設、市民掲示板、JA、
校内等に見童のUD報告文を掲示してもらう



思ったこと、考えたこと

私は、1年生の時にユニバーサルデザインのことを自由研究で調べて、公共交通機関では色々な工夫が施されていることを知り、すごいなあと思っただけでした。しかし、数年経つと自分からの視点ではなく、利用者からの視点で見る事が出来る様になったので、もっとこうした方が分かりやすい、使いやすいと考えられる様になりました。そして、ユニバーサルデザインを必要としている人がいたら、直ぐに行動に移せるようになりました。デザインがいかに優れていても周りの人達が理解を示さなければそれを生かすことができないと強く感じました。

3 今年度の実践

(4) 0次として

「たずねびと」
(5年・読むこと)

夏休み

- ・ いっしょに読もう！新聞コンクール
(昨年度は学級から3名受賞)
- ・ 流れてしまう記事をストック。
- ・ バックナンバーを参照。

テーマ

原爆

9月 5日 5年1組

「原爆の話は昔話ではない」 戦後80年



1945年8月6日、広島で爆撃 3歳だった

要約

病気を抱えながらも修学旅行の人に原爆について語ってきた清水さん
その時の思いについて

意見・感想

一つの爆弾のせいで多くの人が消息を絶ち犠牲を受けた。
戦争でさえ意味のない絶対にやってはいけないことだったのにもっとひどいこ
とをしてそれが落ちた原爆ドームは「負の遺産」であることが納得できました。

先生から

戦争は絶対にやっていけないことですね。
未来に起こるかもしれない戦争を防ぐために私たちは
何ができるのか、考えていますか。

朝日小学生新聞デジタルより 掲示したり、スクラップにすすめたりして0次に

子どもを戦争へ巻きこんだ

戦後80年

「原爆の話は昔話ではない」

戦後80年



学校で起きたできごとを先生が記録する「学校日誌」というものがあります。太平洋戦争中やその後の日誌を読み解いて、学校や子どもたちがどのように戦争に巻きこまれていったのか、明らかにする研究が進んでいます。きょう8月15日は「終戦の日」。当時の人々が終戦をどう受け止めたのかも、学校日誌からわかります。



●アメリカ軍の空襲を記した北海道小清水村（当時）の学校日誌（複写）。赤い文字が横外までびっしり書きこまれています
●青森さんが調べた太平洋戦争中から戦後の学校日誌（複写）＝どれも7月17日、東京都豊島区の学習院大学



学校日誌は生々しい記録
すぐ重要な史料
学習院大学名誉教授・青森利彦さん

日誌にみる戦争中の日常 そのとき学校教育は…

学校日誌は、学校に通う子どもたちのようすや、先生たちの働きを記す大切な記録です。すべての学校が備えるようになると、戦前から現在まで法律で決められています。

教育の歴史が専門の学習院大学名誉教授の青森利彦さんは、これまでに戦争中の学校日誌を全国約110校分、調べてきました。「全国の学校日誌を比べることで、学校、児童がどう戦争に巻き込まれたのかがわかります」と話します。

人々が戦争をどのように見ていたのか、筆づかいや言葉から感じることもできます。例えば北海道小清水村（いまの小清水町）にあった学校の日誌には、アメリカ軍の空襲のようすが記されています。

1945年7月15日、「物凄スピードで持ち下り空を飛ぶ機銃掃射行方。物凄（ものすごい）スピードで低い空を飛び、機銃掃射をうけてきた。もてすい（もてすい）そのようすは横外まで使ってびっしりと書いてありました。『必死の記録』です。学校日誌には学校の日常が生々しく書かれています。調べれば調べるほど、いかに重要な史料かを思います。学校教育は子どもたちの幸せのためのもの。でも戦争中は、まったくちがう状況だったこともわかります。」



平和記念公園には多くの人々が訪れています。中央に写るのは原爆ドーム

広島で原子爆弾（原爆）の被害にあい、自身の体験を次世代に伝えてきたある被爆者が7月2日、この世を去りました。清水弘士さん（享年83）。その体験や思いを聞き取り、「伝承者」として活動する記者が、清水さんからのメッセージを伝えます。アメリカ軍が広島に原爆を落としてから、きょう8月6日で80年です。（中塚恵）



平和への思いを語る清水弘士さん＝4月28日、広島市

清水弘士さん
体験を語り平和願ひ続けて：7月亡くなる

広島への原爆投下

太平洋戦争末期の1945年8月6日午前8時15分、アメリカ軍が広島に原爆を落としました。爆風、熱線、放射線によりその場だけで約14万人が亡くなったと推計されます。同じ年の8月9日には長崎にも原爆が落とされました。

広島、長崎で原爆にあい、「被爆者健康手帳」を持つ人の数は今年3月末時点で9万9130人。初めて10万人を切りました。平均年齢は86.13歳です。

1945年8月6日、広島で被爆 3歳だった

病気をかかえ、酸素吸入器を引きながらも6月半ばまで修学旅行生たちに体験を語り続けた清水さん。「80年前の原爆の話は、昔話ではない。いまにつながる問題だ」と、力強くうたえていました。

1945年8月6日午前8時15分、3歳だった清水さんは、爆心地（原爆が落とされた真下の地点）から約1・6キロメートルの自宅にいました。お母さんがとくに清水さんをかかえてこむと、家がくずれました。そのとき、「ドーン」というすさまじい音が鳴りました。お母さんは傷で血だらけでしたが、清水さんははばば無傷でした。

すぐに火の手がまわりました。にげる途中、「スローモーション」のようにかすみの中をゆったりと動く人間の群れを見たことを覚えています。その夜、広島のはらはばは焼け、空は真っ赤でした。

爆心地から約1キロメートルほどの場所で被爆したお父さんは、傷だらけになっていました。放射線の影響からか、お父さんは2か月後に息を引き取りました。亡くなったとき、おなかや背骨が黒くなっていました。「自分がなぜ死ななければならぬかわからないまま、家族を残して死んでいくのは苦しかっただろう」と清水さんはいいます。

▼2、3面に続く

4 児童の姿と今後の課題

(1) 0 次の1つとして新聞が効果的に活用できる
→子どもから単元を立ち上げる大きな動力になる

(2)新聞を読んだり書いたりする中で、児童の姿から汎用的な
視点を見出していくと、書くことの資質・能力に

(3)他領域・他教科における0次としての活用へ

関口修司先生（NIEコーディネーター）より

- 1 初めてお会いした2015年のお話
「NIEって知ってる？」
- 2 継続・日常化は力なり（NIEも、書くことも）
- 3 ひと手間かける教育

ありがとうございました

橋浦龍彦（東京学芸大学附属小金井小学校国語部）

mail  hashi27@u-gakugei.ac.jp

note  https://note.com/kokugo_jissen

（実践記録等あり。フォローお待ちしております。）